

昭和63年、旧中新田町は、詩人の宗左近（そうさこん）氏が集めた縄文土器・土偶（じょうもんどき・どぐう）など約200点をいただき「宗左近記念縄文芸術館」を開館しました。この館は、縄文を考古学的な資料として展示する一般的な博物館ではありませんでした。縄文独自の芸術性やエネルギーを、『その子孫であるあなたに「タマシイ」で受けとめてほしい』との思いから開館されました。そのため作品には、説明ではなく宗氏の短い詩が添えられました。

宗氏と中新田のご縁の始まりは、昭和55年に当時の町長本間俊太郎氏が町歌の作詞を依頼したことに始まります。町歌「瞳に愛を」の完成に次いで、本間氏の原案を宗氏が補作した中新田町町民憲章（現加美町町民憲章）『夢 海をめざし/ 愛 ふるさとに帰る/ 鮎の凜烈（りんれつ・寒さがとても厳しく、身のひきしまるさま）/ 川よ語れ』が作られました。その後も宗氏は、平成18年に87歳で亡くなるまで、多くの町民と交流を重ね、「中新田未来賞」や「中新田縄文太鼓（だいこ）」、「詩の噴火（ふんか）祭」など、町の文化振興に大きく貢献されました。

こうして開館以来、全国からお客様に訪れていただいた縄文館ですが、東日本大震災の影響や建物が古くなったことにより、令和元年12月をもって閉館となりました。宗コレクションは加美町中新田図書館に移され、縄文土器と宗氏の著書（ちょしょ）を展示する「宗左近記念縄文芸術室」が開かれました。